

大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク
令和5年度 教室系技術職員向けコミュニケーション研修 開催報告
外国人研究者等との日本語を活用した
異文化間コミュニケーションの基礎

【開催日時】

「当たり前」が違うことを認識する

第3回 異文化理解の基礎知識

10月16日(月)13:30~15:00

第4回 異文化間トラブル解決のための分析

10月30日(月)13:30~15:00

【講師】

大阪大学日本語日本文化教育センター 松岡里奈 特任講師

【主催・後援】

主催：大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク

共催：大阪大学日本語日本文化教育センター

大阪大学安全衛生管理部

後援：大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター

令和5年10月16日、30日に、本学の日本語日本文化教育センター（日日センター）と部局横断型女性技術職員ネットワーク（女技ネット）の共催事業として、「令和5年度 教室系技術職員向けコミュニケーション研修 外国人研究者等との日本語を活用した異文化間コミュニケーションの基礎」と題した研修がオンラインで実施され、学内8部局から11名の技術系職員が参加しました。

女技ネットでは、全ての研究者・学生が研究に専念できるみんなにやさしい研究環境作りを目指し、令和4年度から外国人研究者等と日本語を介して円滑にコミュニケーションをとるための研修を展開しています。6月に開催された第1回、第2回では、コミュニケーションの言語面に着目して「やさしい日本語」の基礎の習得を目指しました。今回は文化面に着目し、「日本文化が独特であることに加え、誰しものが異文化だと再認識することで、互いの差異を前向きに受け止められるようになる」という目標で、異文化理解・異文化間コミュニケーションの姿勢と技能について学びました。

第3回では、技術職員にありがちなシチュエーションを交えて、自分が当たり前だと思っていたことを客観的に見直すことから始め、次に、世界と比較しつつ日本の特異性や文化に対する理解を深めることで、文化差について学びました。さらに、身近な留学生が陥るかもしれないカルチャーショックと異文化適応について各自の経験談を交えて理解を深めまし

た。第4回では、異文化を理解することから始まり、“常識”を様々な角度からとらえ直すトレーニングやトラブルを解決するための分析にも取り組みました。

次回は、日本語教育についての研修を開催する予定です。これは、研究者の近くで研究をサポートする存在である技術職員が、留学生の日本語学習を日常生活のなかでそっと支えることで更なるコミュニケーションの活性化を目指すものです。理系部局と日日センターとの連携という、本学の強みを最大限活かした本研修は、研究基盤を支える不可欠な存在である技術職員のスキルアップと大学の国際化への貢献が期待されます。

